

# 研究推進校事業報告書

## <取組と成果のポイント>

授業改善として、児童が道徳的価値を自分事として考える手立てを講じて授業実践を行った。また、道徳科と行事や他教科を組み合わせた小単元を設定し、道徳科の学びを相互に関連付けるようにした。道徳科で考えたり話し合ったりした道徳的価値を、その後の行事や体験活動で、児童が実感したり実践したりすることができた。

家庭と連携した「親子道徳教室」や「親子道徳週間」の取組により、親子で「道徳」について話し合う機会を設定することができた。また、児童の心の成長を、保護者に知ってもらえることができた。さらに、学校だよりや地域の広報誌等で、児童の学びや成長を、学校・家庭・地域で共有することができた。

## 1 研究推進校の概要

学校名	所在地	電話番号	児童数	備考
尾張旭市立旭丘小学校	尾張旭市大久手町上切戸117-1	0561 (54)3066	583 人	

## 2 研究課題

### (1) 「特別の教科 道徳」授業の抜本的改善

外部講師を招聘し、「特別の教科 道徳」の授業改善についての研修を行い、講師からの指導・助言を受けることで、教員の力量向上を図る。

### (2) 家庭・地域との連携による道徳教育の充実

家庭や地域の協力を積極的に受け、地域で行われている行事や様々な講座を児童の学びや体験活動の場としたり、道徳的価値の実践の場としたりして活用し、児童の道徳性を養ったり、道徳的実践力を高める。

## 3 研究主題とその設定の理由

### (1) 研究主題

「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実

— 家庭・地域との連携を生かした道徳教育の推進 —

### (2) 主題設定の理由

本校では、特色ある学校づくりとして「心育て」に重点を置き、児童に豊かな心を育てる取り組みを進めている。この「心育て」を学校の諸活動を一貫する視点とし、人、もの、事柄のよさに気付き、人との関わりを豊かでよいものにしようとする態度を養い、何事にも粘り強く取り組み、主体的で表現力豊かで、心身ともにたくましさのある児童を育てたいと考え、日々の教育活動を行っている。

しかし、昨年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果によると、「あなたの学級は、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の質問項目で、全国・県の平均を下回っていた。あわせて、「普段、一日あたりどれくらいの時間、コンピュータゲームや携帯式のゲームをしたり、

スマートフォンでSNSや動画視聴をしたりしますか」の質問項目は、全国・県の平均を10ポイント近く上回った。このような結果から、本校の児童には、人と関わったり、友達や家族と話し合ったりする経験が少なく、自分の生活をよりよくしようと考えたり、自分で自分を律したりする力に課題があると考えられる。

そこで、「特別の教科 道徳」の授業改善に取り組み、「特別の教科 道徳」と各教科、総合的な学習の時間及び特別活動などとの関連を明確にして、計画的・発展的な指導を行い、道徳教育の充実を図ることとした。さらに、家庭や地域と連携し、児童が保護者と共に道徳的価値について考えたり、地域の人と関わり体験活動を行う場を活用したりすることで、児童の道徳性を養ったり、道徳的実践力を高めることを促し、児童の「心育て」につなげたいと考えた。

### (3) 目指す子どもの姿

- ・ 自分の生活や行動を見つめ直し、学校生活や家庭生活をよりよいものにしようとする子
- ・ 自分自身のよさや、家族や周囲の人、地域のよさに気付くことができる子
- ・ 自分や周りの人を大切に、協力してものごとに取り組むことができる子

## 4 研究概要及び特色

### (1) 研究の仮説

**仮説1** 道徳科の授業において、児童の実体験と関連付けたり、道徳的価値を自分事として考えさせる効果的な指導を行ったりすれば、自分の生活と照らし合わせて自己を深く見つめ直すことができ、生活をよりよくしようとする実践意欲を高められるであろう。

**仮説2** 学校・家庭・地域が連携を強化し、道徳科の授業や学校生活や家庭・地域における体験活動による学びを、児童が振り返ったり、学校・家庭・地域で共有し合ったりすれば、自分自身や周りの人、地域のよさに気づき、周りの人を大切にしようとする気持ちを高められるであろう。

### (2) 研究の手立て

#### **仮説1に対する手立て**

- ア 道徳科と行事、または各教科や総合的な学習の時間等を相互に関連付けた小単元の設定
- イ 児童が道徳的価値を自分事として考えるための指導法の工夫改善
  - ・ 授業に、役割演技や疑似体験的な表現活動、ICTを取り入れ、自我関与を深める工夫や児童の多様な考えを引き出す工夫を行う。
  - ・ 導入や終末に、児童共有の学びや体験活動を想起したり、振り返ったりする場を設定する。
- ウ 児童が自分自身を振り返り自己を見つめ直すことができる振り返りの充実
  - ・ 振り返りをポートフォリオ化し、児童自身が自己の成長をフィードバックできるようにする。

#### **仮説2に対する手立て**

- ア 家庭と共に児童の「心育て」を行う取組
  - ・ PTA「家庭教育学級」と協賛し、「親子道徳教室」の実施
  - ・ PTA主催「親子道徳週間」の実施
- イ 地域と共に児童の「心育て」を行う取組

- ・ 地域学校協働活動の取り組みとして、「子ども会議」の実施
- ウ 上記の取り組みや地域の行事や活動、また活動の「振り返り」を、学校だよりやHP、校内掲示板、地域の回覧板を通して、学校・家庭・地域で共有する。

### (3) 研究課題にかかわる取組

#### 仮説1に対する実践

##### ア 他教科や行事等と関連付けた小単元構成

本校は、令和2年度から、スーパーバイザーとして、岐阜聖徳学園大学准教授の山田貞二先生にお越しいただき、道徳科の授業作りについて指導していただいている。これまでも、「1枚ポートフォリオ」による評価の方法や、一つの教材を同じ指導案で順番に行っていく「リレー道徳」、「授業づくりシート」を活用した指導案作り等を講義していただいた。



<第1回研修会>

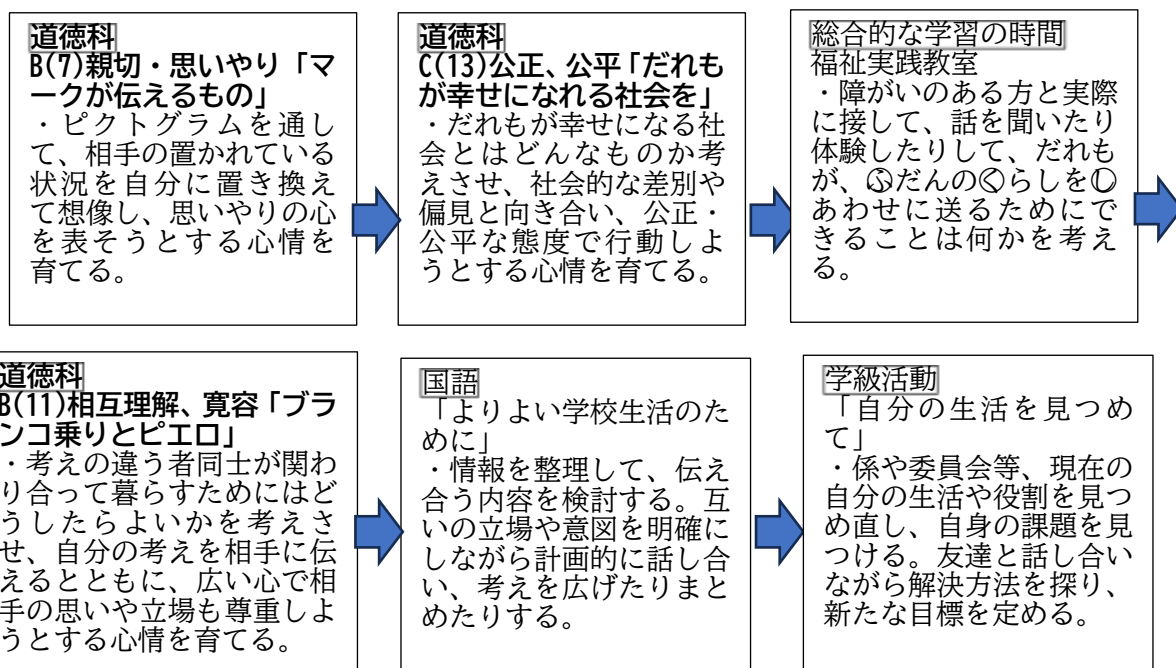
今年度最初の研修会では、道徳科の授業と他教科、総合的な学習の時間、行事等を関連付けて行うカリキュラムマネジメントについて講義をしていただいた。

学年でテーマを決め、道徳科の授業を軸とし、関連がある体験活動や教科の授業等を一連の流れとして組み合わせていくことで、児童が道徳科で考えた諸価値と他教科や体験活動の学びを総合的に高めることができ、より児童の道徳的な実践意欲につながると教えていただき、実践を進めた。

##### (ア) 5年生の実践

テーマを「つながり～信頼し、助け合うために～」とし、道徳科の授業と、総合的な学習の時間、国語科、学級活動を組み合わせて小単元を構成した。それぞれの教科のねらいに沿って授業を進めていくが、道徳科の授業と関連付ける時間を1枚ポートフォリオで明確にし、児童が単元を通してテーマについて考えを深められるようにした。

#### 5年小単元テーマ 「つながり～信頼し、助け合うために～」



まず、道徳科の授業を2コマ行い、3コマ目に「福祉実践教室」を設定した。1コマ目の道徳科 <さまざまな人の立場を考えて>『マークが伝えるもの』で、置かれている状況や立場は人によってさまざまであることを踏まえて、思いやりの在り方について話し合ったり、2コマ目の道徳科<公正・公平な社会を目指して>『だれもが幸せになれる社会を』で、社会的な差別や偏見が起きる背景等さまざまな面から、誰にでも公正、公平な社会について考えたりした。2コマの道徳科で、一人一人の児童が考えたことや、学級で話し合ったことが、福祉実践教室で実際に障がいがある人から話を聞いたり、車椅子体験等を行ったりしたことで、さらに考えが深まり実感が伴ったものになった。



<福祉実践教室>

<福祉実践教室後の児童の振り返り>

- ・ 障がい者、老人、子どもなどみんなが、同じように接する社会になってほしい。
- ・ 「耳マーク」を初めて知った。このマークはみんなに「文字や光で伝えて」という気持ちを伝えているのだと思った。
- ・ 障がいがあっても、便利な道具や工夫で、だれでも幸せに暮らせることを実感した。
- ・ 環境を整えて、障害がある人も楽しく暮らせる社会を実現したい。
- ・ 相手の立場に立って考えることが大切。
- ・ 障がいがある人もない人も、その人その人で対応して助け合うことが大事だと思った。

### (イ) 2年生の実践

低学年では、小単元を3時間程度の短いスパンで構成した。「およげない りすさん」では、授業で「自分と違うところがあっても仲よくすることの大切さ <C-11 公正、公平、社会正義>」について、価値を高めた後、学級活動で社会見学についてグループを決めたり、グループ内での役割や約束事について話し合ったりする活動を行った。

#### 2年テーマ「みんななかよし」

**道徳科**  
C-11 公正、公平、社会正義  
「およげない りすさん」  
・だれにでも公平に接しようとする実践意欲を高める。

**学級活動**  
「社会見学の計画を立てよう」  
・グループづくりとグループでの役割や約束事を決める。

**学校行事**  
11月8日(水)  
社会見学 鞍ヶ池公園  
「グループで協力して動物園を見学しよう」  
・自分たちで決めたルールを守り、友達と楽しく過ごす。

道徳の授業で、みんなと仲よくすることを話し合ったよね。



みんなで行こう!

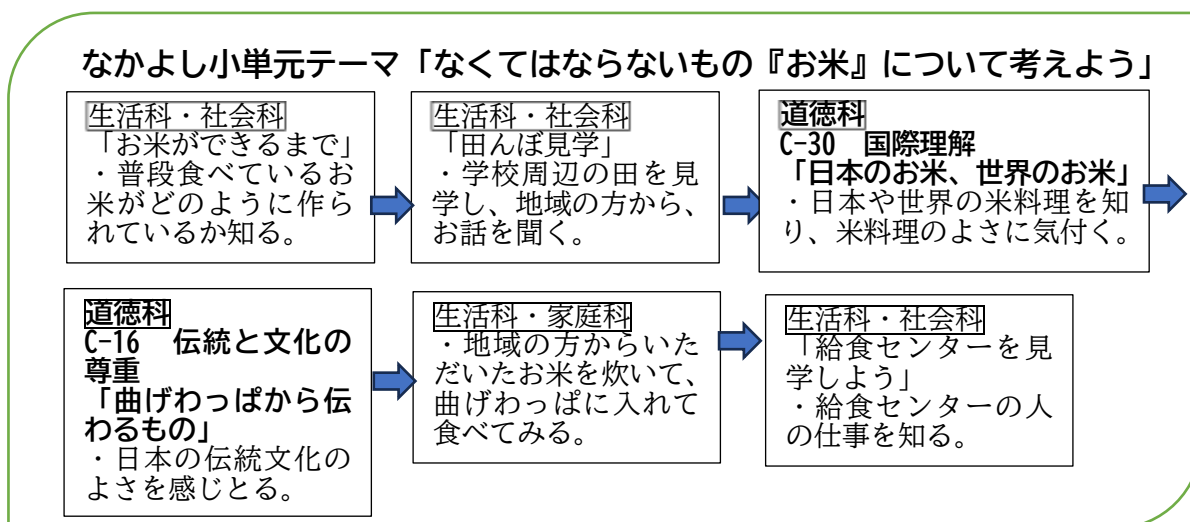


グループ行動だよ。

<2年社会見学の様子>

道徳科で「なかよくすることの大切さ」について価値を高めたことで、社会見学では、子ども同士で互いに「みんなで行こう」「グループ行動だよ」と声を掛け合っている姿をたくさん見ることができた。

#### (ウ) 特別支援学級の実践



特別支援学級の児童は、生活経験が少なく、身の回りにあるものや自分が普段食べているものになかなか関心が向かない。そのため、実物を見たり聞いたり、触ったりして、五感で感じて学ぶことができるよう、体験活動を多く取り入れた。

地域の方に稲刈りの様子を見せていただき、実際に稲や米を触らせてもらった。また、収穫したお米を持ってきていただき、その米でご飯を炊き、道徳で学習した「曲げわっぱ」に入れて食べてみた。子どもたちは、「曲げわっぱ」が木の香りがすることに驚いたり、自分たちが



<なかよし 田んぼ見学>

見学して触らせてもらったお米のおいしさに感動したりしていた。普段何気なく食べている「米」について興味をもたせ、そこから、「食」への興味を広げさせたり、自分たちが食べているものを作ってくれている人への感謝の気持ちを育ませたりすることができた。

#### イ 道徳的価値を自分事として考えるための工夫改善

第2回研修会、第5回研修会では、山田貞二先生の師範授業で、自我関与を深めるための手立てとして、タブレットの「心の数直線」を活用したり、体験的な学習を取り入れた「役割演技」を活用したりした授業を行っていただいた。「あなただったらどうしますか」「自分なら、同じことをするでしょうか」と、登場人物の判断や心情をゆさぶる発問を児童に問い掛けていき、「心の数直線」で可視化させ、その理由を問いながら児童の本音を引き出し、深めていく方法を参観させていただいた。

研修後は、「心の数直線」（低学年は「心情円盤」）や役割演技を取り入れ、児童の考えを可視化すること、意図的指名で児童の考えを引き出すこと、役割演技を通して、児童に道徳的価値を実現することのよさや難しさを感じ取らせることに重点を置く授業を実践した。

#### (ア) 心の数直線や心情円盤を活用した実践

「心の数直線」や「心情円盤」は、気持ちや考えを言い表すことが苦手な児童にとって、有効な手立てとなり、全員が自信をもって自分の考えを表すことができた。また、教師も全員の意見を即座に把握したり、少数派から意見を言わせるなどの意図的指名につなげた

りできるため、児童から多様な意見を引き出すことができた。

#### 4年生「スーパーモンスターカード」 <A(1)善悪の判断>

友達が悪いことをしているときに、注意  
できますか？



言うときらわれるから言えない。



なかがいいなら言えるけど・・・。

#### 2年生「どうして うましくないのか な」 <A(4)個性の伸長>

自分のことが前よりも好きになりましたか？



グループの話し合いがじょうずにできる  
ようになった。

友だちとあそぶことがふえたよ。

#### (イ) 役割演技を活用した実践

1年生の「かぼちゃのつる」では、役のカードを首からさげさせることで、児童がそれぞれの役になり切って登場人物の気持ちを考えられるようにした。また、だれが何の役をやるのか、役割演技を行う児童にも見ている児童にもはっきり分かるようにした。自分の考えを言語化することが難しい低学年には、自分の考えを、登場人物の言葉として即興的に言わせて表現させる役割演技が、特に有効だった。教師が、見ている児童に「どう思った？」と投げかけたり、演じている児童に「実際にやってみて、どう思う？」と感想を述べさせたりして、学級全体で、道徳的価値を実践するよさや難しさを共有することができた。

しかし、指導過程の最後に役割演技を取り入れた実践では、児童の本音を十分に引き出すことができなかった。事後の研究協議会でも、自分事として役割演技をしていたのかという議論になった。講師の山田貞二先生からは、すでに道徳的価値について十分話し合った後だったため、それまでの話し合いから出された考えや板書を見て述べることにとどまってしまった。「心の数直線」で本音が出た後、即興で役割演技をさせる等「心の数直線」と役割演技をリンクさせるとよかった、とアドバイスをいただいた。

役割演技を指導過程のどこに位置付けると効果的か、吟味する必要がある。



#### 1年生「かぼちゃのつる」 <C(10)規則の尊重>

つるが切れてしまったかぼちゃさんに、なんて言ってあげますか？

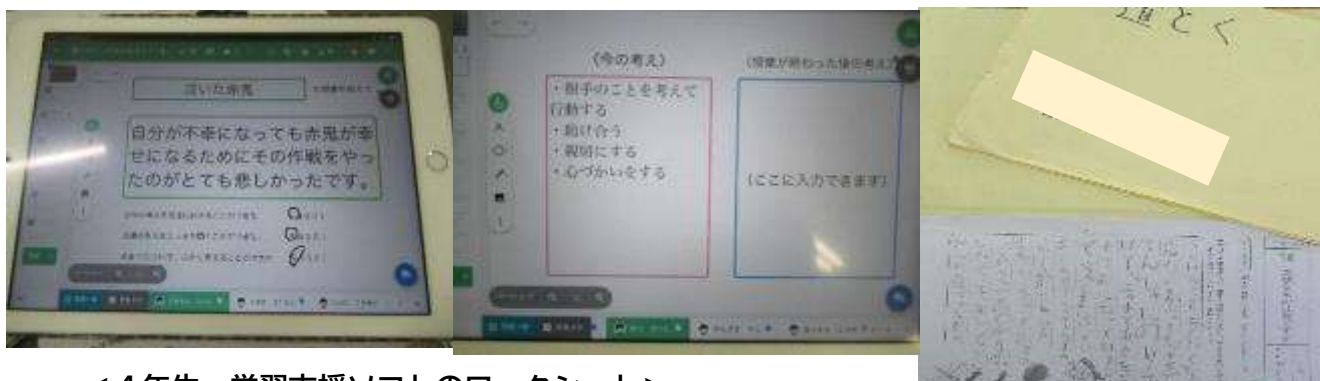
だから、「あぶないよ」って言ったのに。みんなの言うことを聞いてくれたらよかったのに。

これからは気をつけようね。

## (ウ) 振り返りの充実

1時間の授業を通して学んだことをワークシートに記入し、ポートフォリオにしている。各学年で形式は違うが、学期ごとやテーマごとに作成し、自分の学びを一度読み返し、振り返らせてから、家庭へ持ち帰らせている。

1から3年は授業で使用したワークシートを、台紙に重ねて貼り付けていくようにし、ワークシート集としてまとめ、5、6年生は一枚ポートフォリオを活用した。4年生は、学習支援ソフトのワークシートに書き込ませ、ポートフォリオにした。



<4年生 学習支援ソフトのワークシート>

<低学年 ワークシート集>

学期末に1枚ポートフォリオを自宅に持ち帰らせ、保護者からメッセージをもらった。保護者からは、児童への励ましや、親として子どもへ伝えたいことなど様々なメッセージをいただいた。児童も保護者から温かいメッセージをもらい、嬉しそうにしていた。

### ～小単元を終えて、保護者からのメッセージ～

- ・ それぞれの授業をしっかりと振り返ることができていてえらいね！学んだことを活かして、相手の気持ちを考えられる人になってください！
- ・ 自分とは考えが違う人、状況が違う人、困っている人など、まわりにはいろいろな人がいる事を知ることができて、たくさん勉強できましたね。
- ・ これからもたくさんの人の言葉に耳を傾けて、お互いのことを知ったり、知ってもらったりする力をどんどんつけてほしいです。
- ・ 今回学んだことを普段の生活でも思い出して行動できるといいね。
- ・ 互いに励ましあい、助け合う中で、絆が深まり信頼が生まれてくるんだね。
- ・ この先、たくさんのいろんな人と関わっていくと思います。自分と他人は別ものと考えて気持ちを押しつけたりはせず、全て分かり合えなくても、思いやりの心を常にもっていてほしいなと思います。
- ・ 学校の授業や、日々の生活の中で人との関わり方、つながり方、助け合い方が学べていることが分かりました。これからも、相手の気持ちを考えながら、自分の意見も主張できたらすごいね！
- ・ 信頼や助け合うために、どうしたらよいかを考え、学べているのがわかりました。
- ・ 学習前後で、人の気持ちを考えられるようになったことはすばらしい！



<高学年 1枚ポートフォリオ>

## 仮説2に対する実践

### ア 保護者と共に児童の「心育て」を行う取組

#### (ア) 親子道徳教室

7月8日(土)午後、PTA家庭教育学級とタイアップし、「親子道徳教室」を開いた。前述の山田先生と、ゲストティーチャーとして臓器移植を受けた加藤みゆきさんをお招きし、「つなぐ～移植から～」というテーマで授業をしていただいた(親子32名、地域の方4名、教員4名参加)。「実際に自分の家族がそういう立場になったとき、臓器を提供しますか」という山田先生の問いに、親子で話し合った。「お母さんの心臓や臓器をあげてもいい?」と問われると「絶対に嫌。あげたくない」と言う児童もいれば、「どうすればいいか今はまだ考えられない」と話す児童もいた。「なぜ、みゆきさんは前向きな気持ちになれたのだろう」という問いには、「臓器を提供して下さった家族のためにも、元気に生きようと思ったから」という意見や、地域の方から「命を受け継ぐ責任感ではないか」と御意見をいただき、会場内にいる参加者全員で、「命」というテーマについて考えを深めていった。



<親子道徳教室>



<親子で考える>

#### ～「親子道徳教室」で授業を受けた保護者と児童の感想～

##### 保護者

- ・ 正解のない問題を考えることは難しいと感じましたが、子どもと共に考えたり、話し合ったりすることができて、とてもよい機会になりました。子どもがどう感じ、どう話すのかを聞くのは新しい発見がたくさんありました。
- ・ 普段親子でなかなか話すテーマではないので、今回がとてもよい機会になりました。思っている以上に、子どもが自分の意志・意見をもっていることにも驚きました。
- ・ 「命」という重いテーマを子どもと一緒に考える貴重な時間を与えて下さりありがとうございました。子どもの意志を尊重しつつ、親の考えを子どもに伝える努力の必要性を強く感じました。

##### 児童

- ・ 前から命は大切だと感じていたけれど、今日さらに命を大切だと思った。これからは他人の気持ちも考えて行動したい。
- ・ 命がどれだけ大切かが分かりました。みゆきさんに臓器をくれた人の家族が「家族の最後の役割を果たした」と言っていました。家族を大切にしようという気持ちが大きくなりました。自分の意思や家族の意思を大切にしたいと思いました。

#### (イ) 親子道徳週間

10月6日～13日まで、PTA主催の「親子道徳週間」を行った。親子で一緒に道徳の教材を読み、登場人物の心情や生き方について考えたり、話し合ったりする取組である。1年生から4年生までの児童は、道徳科の教科書の教材の中から好きなものを選ばせることにし、5、6年生は、担任が教材を指定して行った。自由参加であったが、6割以上の家庭が提出して下さった。保護者からの感想を読むと、「親子で話し合う機会をもつことができよかった」という肯定的な意見が多くあり、保護者に道徳科の意義を理解していただくよい取組ができた。



<親子道徳週間ワークシート>



### ～「親子道徳週間」についての感想～

- ・ 道徳の教科書を家では開いたことがありませんでしたが、いろいろな話の中から、クラスで考えたり意見を出し合ったりしていることを聞きました。今回の教材以外の話と一緒に読むきっかけとなりました。(1年保護者)
- ・ 教材を読んで、登場人物の気持ちを子どもと話し合い、人の事を想ったり心配したりする気持ちが子どもから聞けて、心が育っていることをうれしく感じました。(2年保護者)
- ・ 短いお話の中で、子どもは色々な考えをもち、他の友達の意見を知り、またさらに考える。学校の道徳の時間の大切さを知るよい機会になりました。(3年保護者)
- ・ 正解はない中、お互いの考えを話し合うにも、相手の気持ちに立って考え、思うことの大切さを家族で再確認できました。(4年保護者)
- ・ いろんな視点から考えることが大切だと分かっているけど、いざ自分のことになると難しいと思います。今回、「自分ならどうするか」ということをゆっくり話し合えたことがよかったです。(5年保護者)
- ・ 「世界人権宣言」について知り、また考えるきっかけになりよかったです。道徳の時間が、意味ある時間になるよう、今後も身近な問題に関連して実感できると、子どもたちには分かりやすいかなと思います。(6年保護者)

## イ 地域と共に児童の「心育て」を行う取組

### (ア) 地域学校協働活動「子ども会議」

9月11日、第2回学校運営協議会で「子ども会議」を行った。テーマは「大人になっても旭丘校区に残っていてほしいもの」として、学校運営協議会委員9名と児童9名が参加した。子ども会議の前に、5年生と6年生全員に、テーマについてアンケートをとった。一番多かったのは、やはり校区の豊かな「自然」だった。また、「地域の祭り」や毎日登下校を見守っていただいている「ふれあいパトロール」という意見も多かった。普段何気なく過ごしている地域のよさに、児童が目を向けるきっかけとすることができた。

委員からは、「田や花壇や自然を残すということは、田や花壇の世話をしたり、自然を残そうと努力したりしてくれる人がいるということをお忘れなでほしい」「あいさつは本当に大切だと思うので、小学生のみなさんから積極的にしてほしい」などとお話があった。児童からは、「地域の方が、自分たちのことを考えてくれていることが分かって、あらためて感謝の気持ちをもった」「いろいろな方の力で地域の自然が守られていることがわかった。みんなに伝えたい」という感想が挙がった。それを受け、子ども会議後、会議での内容を校内放送で発表し、全校児童と共有した。また、委員の方からのお話を「がおかつ子へのメッセージ」として受け止め、自分たちに何ができるか考えていこうとする気持ちを高めることができた。

3学期には、3月に、児童会主催の「感謝の会」を開き、地域の方をお招きし、普段思っている感謝の気持ちを手紙にして渡すことや、2月に行う「地域あいさつ運動」を今まで以上にあいさつでいっぱいに行えるよう、児童会を中心に計画している。

この活動を継続し、児童が、地域の一員として、地域に誇りと愛着をもってくれることを期待している。



<子ども会議>



<発表する児童>

## (イ) 学校・家庭・地域で共有

毎月の学校だより「ゆりのき」で、今年度の研究に関することを毎月掲載し、保護者や地域の方に学校の取組を知っていただいた。また、本校の地域では、数年前から、旭丘地域連携教育推進委員会が「がおかホリデーチャレンジ」という様々な催しを実施しており、児童が積極的に参加し、地域の方と関わりを深めている。地域行事に参加している児童の様子を、広報誌に、写真や感想とともに掲載し地域に回覧して下さっている。

また、それらを職員室前掲示板にも掲示し、子どもたちや来校される方に見ていただけるようにし、学校・家庭・地域で連携して児童の「心育て」を行っている様子を共有した。



<ホリチャレだより>



<職員室前掲示板>

## 5 研究の評価

### (1) 研究の成果

授業改善としての取組の一つとして行った小単元の設定で、各教科や体験活動での児童の学びが、道徳科の諸価値について考える手がかりになったり、実践の場となったりした。また、「心の数直線」や「心情円盤」の活用で、児童が自分の考えを表現することができたり、学級全体の考えを共有したりすることができ、道徳の授業で話し合いが活発に行われるようになった。年度末の道徳に関するアンケート（教職員用）では、多くの項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が上がっている。年間通して5回も研修を受けることができ、実践を積んだことで、教員個々の力量向上につながった。

家庭と連携した取組「親子道徳教室」や「親子道徳週間」、振り返りシートへのメッセージの記入は、親子で一つのテーマを話し合ったり、子どもの考えや思いを知ってもらったりすることができ、よい取組となった。さらに、道徳科の意義を保護者に理解していただけたことも大きな成果だった。年度末の保護者アンケートで、「学校は道徳の授業や行事、体験活動を通して心を育てようとしていますか」の質問項目に「そう思う」「概ねそう思う」の回答が94%、「お子さんは、道徳の授業や行事、体験活動を通して心が育ってきていますか」の項目では、「そう思う」「概ねそう思う」の回答が90%であった。今年度行った、家庭や地域とともに行う道徳教育を通して、子どもたちの心を育てようとした学校の取組に理解が示されたと受け止めている。

### (2) 今後の課題と取組

児童の年度末の道徳に関するアンケート結果を見ると、残念ながら、年度当初とほぼ変化がなかった。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が高くなった項目もあれば、下がった項目もある。小単元を組み、道徳科の授業の後の行事や体験活動では、児童の考えが深まったり、言動に表れたりした様子が見られたが、高めた価値や道徳的实践意欲は限定的なものであったといえる。単年度の実践で、児童の心の成長が図れるものではなく、小学校の6年間という長いスパンで心を育てていかなければならないと強く感じた。今年度、家庭や地域とともに行った「心育て」の活動を足掛かりとし、さらに道徳教育を通じた連携を進めていきたい。